

教育裁判事例集

一裁判が投げかける
学校経営・教育行政へのメッセージ

●佐々木幸寿 著 定価2,750円

学校経営が直面してきたさまざまな問題などのように司法に判断されてきたのか、学校運営・教育行政にまつわる裁判事例を読み解く。



スクールティーチャー

一教職の社会学的考察 定価4,400円

●ダン・ローティ 著 / 佐藤学 監訳

織田泰幸・黒田友紀・佐藤仁・榎景子・西野倫世 訳
1975年発行の教師教育改革の起爆剤となった名著をついに翻訳。現在にも通じる教師の直面する複雑な現実を明快に解明。



答えの出ない「論争問題」

定価2,970円



〒153-0064 東京都目黒区下目黒3-6-1
<http://www.gakubunsha.com>

学文社

Tel 03-3715-1501(代) Fax 03-3715-2012
E-mail: eigyogakubunsha.com

目次

1. 研究大会のご案内	2
2. 研究大会参加申し込みのご案内	2
3. 自由研究発表要領	3
4. お問い合わせ	3
自由研究発表 1	4
自由研究発表 2	5
自由研究発表 3	6
自由研究発表 4	7
自由研究発表 5	8
自由研究発表 6	9
自由研究発表 7	10
自由研究発表 8	11
定期総会	12
シンポジウム	13
課題研究	14
ラウンドテーブル 1 実践研究委員会	15
ラウンドテーブル 2 国際交流委員会、他	16

日本学校教育学会第 37 回研究大会の開催にあたって

日本学校教育学会第 37 回研究大会は、2023 年 8 月 5 日（土）に、岡山県倉敷市にある川崎医療福祉大学を主催校としまして開催いたします。皆様をお迎えできますことを大変光栄に存じます。

本来であれば、皆様を直接お迎えしたいところではありますが、今大会も、第 35・36 回研究大会と同様に、オンラインによる開催とさせていただきます。

本学会は、学校教育に関する実践と理論の緊密化・統合を目指す学校教育の実践者と研究者によって創立された学会であり、理論と実践の往還・融合を目指した活動を特色として参りました。今大会は、自由研究発表 37 件、シンポジウム、課題研究、2 つのラウンドテーブルを予定しております。昨年度同様、一日に凝縮した研究大会となりますが、さまざまな課題について議論が交わされ、より一層研究を深められる機会となりますことを願っております。

自由研究発表につきましては、分科会を 8 会場設定しております。Zoom による実施となりますが、活発な議論と交流が行われることを願っております。

シンポジウムでは、「子どもの多様性を包摂する学校教育について考える—乳幼児期から義務教育就学初期（架け橋期）を中心に—」と題し、子どもや家庭の多様性を踏まえた教育について、さまざまな立場からお話しをいただき、皆様とともに子どもの多様性を包摂する教育の在り方を模索できればと考えています。

課題研究では、「転換期の学校教育」をテーマとした 3 年間の研究が計画されております。1 年目となる今回は、「転換期の学校と子ども—学びをどう保障するか」と題して研究協議が行われます。

2 つのラウンドテーブルでは、各委員会より課題解決のための提言や成果の発表が予定されています。実践研究委員会により開催されるラウンドテーブル 1 では、「オープン実践研究会の可能性を問う」と題して、コロナ禍の中オンラインを用いて開催されてきたオープン実践研究会を題材として、学校教育の実践者と研究者による教育実践追及の場としての可能性について議論を行います。また、国際交流委員会により開催されるラウンドテーブル 2 では、「ミニ国際交流シンポジウムと海外スタディツアーを問う」と題して、これまでのオンラインでのミニ国際交流シンポジウムでの成果を基盤として、2023 年度に開催が計画されているシンポジウムと海外スタディツアーについて議論が行われます。

オンラインによる開催となりますため、皆様にご不便をおかけすることもあるかもしれませんが、実り多い大会となりますよう、準備委員会一同、精一杯準備と運営を務めさせていただきます。ご理解とご協力を賜りたく存じます。何卒よろしくお願い申し上げます。

皆様のご参加を心よりお待ちしております。

日本学校教育学会 第 37 回研究大会
準備委員会委員長 中川 智之

1. 研究大会のご案内

(1) 大会日時と会場

日時：2023年8月5日（土）9:00～18:30

会場：担当校 川崎医療福祉大学 Zoom によるオンライン開催。

（8月4日（金）に理事会を開催 15:00～18:00）

(2) 大会日程

大会日程は下記の通りとなります。

時間	8:30～ 9:00	9:00～ 11:30	11:30～ 12:15	12:15～ 13:00	13:10～ 15:00	15:10～ 17:00	17:10～ 18:30
内容	Zoom 入室開始	自由研究発表 (150分)	休憩 (45分)	定期総会 (45分)	シンポジウム (110分)	課題研究 (110分)	ラウンド テーブル (80分)

2. 研究大会参加申し込みのご案内

(1) 大会参加申し込み

大会への参加を希望される会員は、以下のチケット販売サイト Peatix より事前にお申し込みください。お申し込みは7月25日（火）締切といたします（※お申込みと大会参加費のお支払いが同時に行われます。なお、Peatix の利用にはアカウント登録 [無料] が必要です）。

【QR コード】

【大会参加申込み：Peatix の URL】

<https://peatix.com/event/3572623>



(2) 大会参加費について

今年度の大会参加費は、会員区分に応じて、下記の金額といたします。

- 正会員・臨時会員 2,000 円
- 院生会員・学部生会員 無料

3. 自由研究発表要領

(1) 発表時間

自由研究の発表及び質疑応答の時間は、下記の通りとします。その際、発表は Zoom を用いて、各会員のパソコン等により実施いただきます。

- 個人研究発表（登壇者が 1 名）・・・発表 20 分、質疑応答 10 分
 - 共同研究発表（登壇者が 1 名～複数）・・・発表 20 分、質疑応答 10 分
- ※Zoom による画面共有は一人が担当するものとします。

(2) 発表資料

当日に配布する発表資料がございましたら、7月31日（月）17:00までに本研究大会準備委員会 (jase2023@mw.kawasaki-m.ac.jp) まで、PDFでお送りください。大会参加者の方に、事前にメールで配布させていただきます。その際、件名を「自由研究発表資料」としていただいた上、ファイル名を次のようにしてください。

自由研究発表 3、4 番目の発表の場合・・・
ファイル名：「3-4（発表タイトル名）（筆頭発表者名）」

(3) 発表のとりやめについて

万一、お申込みいただいた発表を取りやめる場合は、必ず事前に本研究大会準備委員会 (jase2023@mw.kawasaki-m.ac.jp) までご連絡ください。発表者が欠席の場合は、発表時間の繰り上げはせず、質疑・休憩の時間に割り当てます。

4. お問い合わせ

大会参加に関することは大会準備委員会事務局に、その他のことについては学会事務局にお問い合わせください。

【大会準備委員会事務局】

〒701-0193 岡山県倉敷市松島 288 川崎医療福祉大学子ども医療福祉学科
日本学校教育学会第 37 回研究大会 準備委員会事務局
E-mail : jase2023@mw.kawasaki-m.ac.jp（担当：松本・種村・蓮井）

【学会事務局】

〒156-8550 東京都世田谷区桜上水 3-25-40 日本大学文理学部教育学科 田中謙研究室
E-mail : JASE.officialmail@gmail.com

8月5日(土) 9:00 ~ 11:30

自由研究発表1

司会 安藤 知子(上越教育大学)

1) 9:00 ~ 9:30

対話から育む同僚性についての一考察

ー青木小 Fika でつくる協働型学校ー

○六川 麻耶(信州大学/長野県青木村立青木小学校)

2) 9:30 ~ 10:00

教員の職能開発における個業性の研究

ー高校教員を中心にー

○船越 康平(京都市立京都工学院高等学校)

3) 10:00 ~ 10:30

私の学校づくり論

○隅内 利之(隅内教育研究所)

4) 10:30 ~ 11:00

教師の「豊かさ」につながる省察についての考察

ークリティカルフレンズの存在を中心にー

○齋藤 綾子(上越教育大学大学院)

5) 11:00 ~ 11:30

「分業」と「のりしろ」で目指す働き方改革

ー持続可能な学校運営のためのアイデアとしてー

○湯澤 卓(富山国際大学)

8月5日(土) 9:00 ~ 11:30

自由研究発表2

司会 蜂須賀 洋一 (上越教育大学)

1) 9:00 ~ 9:30

『生徒指導提要』における発達支持的生徒指導に関する一考察

—いじめ防止の題材としての村上春樹『沈黙』に対する価値再考—

○今田 晃一 (大阪樟蔭女子大学)

村山 大樹 (帝京平成大学)

2) 9:30 ~ 10:00

『生徒指導提要』における困難課題対応的生徒指導に関する一考察

—不登校支援としてのネットワーク型支援チーム編成に向けたスタッフ研修—

○村山 大樹 (帝京平成大学)

今田 晃一 (大阪樟蔭女子大学)

3) 10:00 ~ 10:30

公立中学校における校内研修の実態

—2022年度A中学校の実践を通して—

○山中 樹 (群馬県公立中学校)

4) 10:30 ~ 11:00

日本の中学校の生徒間関係の変遷とスクールカースト

○小原 一馬 (宇都宮大学)

5) 11:00 ~ 11:30

中学生のキャリア自己効力感の向上に関する研究

—中学校における地域連携型キャリア教育の実践に基づいて—

○山崎 保寿 (静岡大学)

8月5日(土) 9:00 ~ 11:30

自由研究発表3

司会 黒田 友紀(日本大学)

1) 9:00 ~ 9:30

小学校の教科担任制導入に関する課題について
—専科教師と学級担任の子ども認知の比較から—

○渡邊 信隆(東京都板橋区立志村第六小学校)

2) 9:30 ~ 10:00

表現運動・ダンス学習における即興表現の学び

○柳瀬 慶子(常葉大学)

3) 10:00 ~ 10:30

保育教諭を目指す学生にとっての演劇体験の意義と指導上の難しさ
—指導教員の自由記述の分析を通して—

○山本 直樹(長野県立大学)

4) 10:30 ~ 11:00

幼稚園教諭等の育成指標と研修との関わりの現状と課題

○鈴木 久米男(福島学院大学)

8月5日(土) 9:00 ~ 11:30

自由研究発表4

司会 安藤 雅之 (常葉大学)

1) 9:00 ~ 9:30

英語の学習を通して育む 21 世紀型コンピテンシーの育成

○服部 孝彦 (大妻女子大学)

2) 9:30 ~ 10:00

地球市民の育成を目指す探究的歴史教育研究

ーオランダにおけるビッグヒストリーを事例としてー

○祐岡 武志 (阪南大学)

3) 10:00 ~ 10:30

島嶼間の遠隔国際交流をふりかえる

ー奄美群島・喜界島の実践から見えた3つの壁ー

○内田 富男 (明星大学)

4) 10:30 ~ 11:00

日本人高校生と留学生による教科学習における協同学習

ー数学科授業の観察事例ー

○島 由佳 (鹿児島高等学校)

8月5日(土) 9:00 ~ 11:30

自由研究発表5

司会 林 幸克 (明治大学)

1) 9:00 ~ 9:30

PISA の視点からみた「総合的な探究の時間」の意義

○浅井 智雄 (福山平成大学)

2) 9:30 ~ 10:00

子どもと教師の相互作用に基づいたカリキュラム・デザインに関する一考察
— 拡張的学習理論の視点からの検討 —

○幸阪 創平 (東京学芸大学附属竹早小学校)

3) 10:00 ~ 10:30

世界各国における「総合的な探究の時間」のカリキュラム設定について

○牛 玄 (東京学芸大学)

4) 10:30 ~ 11:00

「探究」のテーマをみつける

○岡本 久美子 (名古屋市立大学)

8月5日(土) 9:00 ~ 11:30

自由研究発表6

司会 藤田 武志(日本女子大学)

1) 9:00 ~ 9:30

高等学校通信制の課程における「ビジネス教育」特殊性の現状と課題を考える
—多様な生徒への個に応じた指導と評価の一体化を志向する指導のために—

○我妻 芳徳(山形県庁金融教育広報委員会)

／山形大学大学院理工学研究科博士後期課程)

2) 9:30 ~ 10:00

インクルーシブ教育を目指した「公共」の授業実践
—定時制高等学校における取り組みを通して—

○山中 信幸(川崎医療福祉大学)

3) 10:00 ~ 10:30

通信制高校からの高等教育機関進学時の不安の構造

○峯村 恒平(目白大学)

4) 10:30 ~ 11:00

自閉スペクトラム症(ASD)の児童生徒の現象学的運動指導

○土屋 弥生(日本大学)

5) 11:00 ~ 11:30

高等教育機関における「配慮願ひ」の在り方を考える

○小川 眞理絵(東京学芸大学連合学校教育学研究科(博士課程)学校教育学専攻)

8月5日(土) 9:00 ~ 11:30

自由研究発表7

司会 和井田 節子 (共栄大学)

1) 9:00 ~ 9:30

「ベテラン教員」のリ・クリエイション(再創造)を促進させるマイスター研修の検討

○青木 一 (信州大学大学院)

2) 9:30 ~ 10:00

教職を続けていくための手立ての構築

—若手教員の困難に着目して—

○渡邊 はるか (目白大学)

枝元 香菜子 (金沢学院大学)

峯村 恒平 (目白大学)

藤谷 哲 (玉川大学)

3) 10:00 ~ 10:30

高等学校の同僚性構築におけるミドルリーダーの役割と実践に関する検討

—Well-beingな学校作りを目指すリベロとしての取り組み—

○竹内 正志 (長野県長野東高等学校

／信州大学教職大学院)

4) 10:30 ~ 11:00

指導主事の専門職基準の開発

—指導主事養成プログラムの開発を見据えて—

○浅野 あい子 (東京学芸大学)

伊東 哲 (東京学芸大学)

5) 11:00 ~ 11:30

若年教員の自律的成長を支える学校 OJTⅢ

—若年教員間の相互成長—

○柳瀬 啓史 (高知市立介良小学校)

8月5日(土) 9:00 ~ 11:30

自由研究発表8

司会 和井田 清司(武蔵大学)

1) 9:00 ~ 9:30

SDGsに対応した学習スキル開発に関する研究(経過報告)2

- 中山 博夫(目白大学)
- 多田 孝志(金沢学院大学)
- 和井田 清司(武蔵大学)
- 石田 好広(目白大学)
- 峯村 恒平(目白大学)

2) 9:30 ~ 10:00

高校統廃合と「学びの選択肢」の保障に関する一考察
—学科課程再編を中心に—

- 山田 朋子(女子美術大学短期大学部)

3) 10:00 ~ 10:30

過疎地域の学校と家庭・地域とのカリキュラム・マネジメントを通じた連携、協働に関する考察
—「総合的な学習の時間」と地域・学校行事に着目して—

- 大谷 匡之(上越教育大学・院生)

4) 10:30 ~ 11:00

教師は災後の学校をどう生きたか
—石巻の二人の教師の語りから—

- 菅原 至(上越教育大学)
- 堀 健志(上越教育大学)

8月5日（土）12：15 ～ 13：00

定期総会

8月5日(土) 13:10 ~ 15:00

シンポジウム

子どもの多様性を包摂する学校教育について考える —乳幼児期から義務教育就学初期（架け橋期）を中心に—

不利な養育環境にある子どもの早期からの教育格差の是正に向け ECEC (Early Childhood Education and Care) への注目は高まっており、OECD は「Starting Strong」を公表している。日本においても多様な背景をもつ子どもの存在が指摘されており、中央教育審議会答申(令和3年1月26日)においては、「令和の日本型学校教育」の構築に向けた今後の方向性の1つとして「学校教育の質と多様性、包摂性を高め、教育の機会均等を実現する」が挙げられている。また、義務教育開始前後の架け橋期に注目し、一人一人の多様性に配慮した上で全ての子どもに学びや生活の基盤を育むことを目指す「幼保小の架け橋プログラム」が取り組まれている。

このような状況を受け、本シンポジウムでは、家庭の多様性を踏まえた就学前教育及び就学に関する世界的動向、我が国における特別支援教育・インクルーシブ教育の動向、子ども基本法の精神を踏まえた教育と医療福祉の両者を学ぶ意義についてお話しいただく。

本シンポジウムをとおして、フロアの皆様と子どもの多様性を包摂する学校教育について模索する機会としたい。

【シンポジスト】

- 門田 理世氏 (西南学院大学人間科学部児童教育学科教授
国立教育政策研究所幼児教育研究センターフェロー
Member, OECD Early Childhood Education and Care Network)
- 久保山茂樹氏 (独立行政法人国立特別支援教育総合研究所
インクルーシブ教育システム推進センター上席総括研究員
兼センター長)
- 橋本 勇人氏 (川崎医療福祉大学医療福祉学部子ども医療福祉学科教授
前・岡山県高等学校 PTA 連合会会長
元・全国保育士養成協議会常任理事)

【司会】

諏訪 英広 (川崎医療福祉大学)

8月5日(土) 15:10 ~ 17:00

課題研究

転換期の学校と子ども－学びをどう保障するか

2022年度から開始した今期研究推進委員会では、「転換期の学校教育」を今後3年間にわたる共通テーマとして掲げ、課題研究を実施する。初回にあたる今回は、転換期の学校における多様な子どもたちの学びの保障について扱うことにしたい。

転換期の学校というフレーズそのものは、この四半世紀あまりにわたって用いられてきた。グローバル化とICT(情報通信技術)の飛躍的發展、また昨今では、モノのインターネット(IoT)、人工知能(AI)やロボットの開発、その一方で地球環境の危機的状況、少子高齢化等のもと、社会の産業構造や労働市場、人々の日常生活が大きく変化するなか、学校における教育の内容と方法のあり方は転換が求められてきたのである。

3ヶ年の初年にあたる今大会では、まず、転換期の学校教育のあり方をめぐって議論を進めていくにあたり、どのような参照軸によることができるのかについて理論的整理を行う。本課題研究で注目したいのは、人間主義の教育(a humanistic approach to education)をめぐる国際的な議論の展開である。人間主義のアプローチでは、経済発展を主軸にした教育の功利主義的機能を超え、何人をも排除や周縁化しないインクルーシブな教育を中心課題とする(UNESCO、2015)。このように議論の参照軸を整理検討したうえで、冒頭に掲げたとおり、転換期の学校における多様な子どもたちの学びの保障について議論したい。具体的には、外国につながる子どもたち、不登校の子どもたちの学びの保障を視野に入れた実践についての報告をもとに、多様な子どもたちをめぐる教育実践の可能性ならびに課題について探究する。

*参考文献:

UNESCO (2015) *Rethinking Education: Towards a global common good?*

<https://unevoc.unesco.org/e-forum/RethinkingEducation.pdf> (2023年4月29日最終閲覧)

(日本教師教育学会第10期国際研究交流部 百合田真樹人・矢野博之編訳著(2022)『ユネスコ・教育を再考する グローバル時代の参照軸』学文社)

【登壇者】

百合田 真樹人(独立行政法人教職員支援機構)

宮澤 千澄(横浜市日本語支援拠点施設 都筑ひまわり)

亀原 修一(高山市教育委員会)

【司会・進行】

金井 香里(武蔵大学)

黒田 友紀(日本大学)

8月5日(土) 17:10～18:30

ラウンドテーブル1

オープン実践研究会の可能性を問う

1. 本ラウンドテーブルの趣旨

実践研究委員会では、オープン実践研究会（オンライン研究会）を開催してきた。その研究会では、優れた教育実践を追い求めて、学会会員以外の学校現場の実践者や研究者にも参加していただき、共に語り合い研究を深めてきた。第一弾はプレ・オープン実践研究会である。斎藤喜博にルーツを持つ課題追求型授業と共創型対話学習を取り上げ、12月3日に開催した。第二弾は第1回オープン実践研究会である。国際理解教育を取り上げ、3月11日に開催した。第三弾は第2回オープン実践研究会である。地域とつながる探究活動を取り上げ、6月4日に開催した。本ラウンドテーブルでは、3回のオープン実践研究会を振り返り、その可能性を探っていききたい。

2. 話題提供および司会等

話題提供： 守内映子（日本映画大学）
牛玄（東京学芸大学）
湯澤卓（富山国際大学）
総括： 多田孝志（金沢学院大学）
司会： 中山博夫（目白大学）

(実践研究委員会)

8月5日(土) 17:10 ~ 18:30

ラウンドテーブル2

ミニ国際交流シンポジウムと海外スタディツアーを問う

1. 本ラウンドテーブルの趣旨

2022年度は祐岡武志会員(当時はオランダ・アムステルダム大学客員教授)のご協力と林明煌副委員長の尽力により、ヨーロッパと台湾からのZoomによるオンライン形式でミニ国際交流シンポジウムを開催することができた。この成果を生かしつつ、ミニ国際交流シンポジウムを2023年度も企画することとした。

2023年度は、10月に台湾の国立嘉義大学で国際会議に参加し、第1回ミニ国際交流シンポジウムを兼ねた発表を行う。海外からは、ドイツのデュッセルドルフの日本人学校に勤務する榎府暢子氏にもご協力いただき、ドイツにおける日本人学校の教育について理解を深める。その後、国際交流委員がそれぞれに現在取り組んでいる研究の紹介を行う。今回のラウンドテーブルでは、台湾での国際会議で報告する各委員の内容の骨子を共有することにする。ゲストの榎府氏の報告内容については、10月のミニ国際交流シンポジウムの主担当である下島委員から近況を報告いただく予定である。

2023年度に限り、2回目の海外スタディツアーも企画されている。2回目は実践研究委員会を中心として、国際交流委員会もツアーに参加させていただき、2024年3月に実施予定である。訪問先はマレーシアで、2020年度に新型コロナウイルス感染症の影響で延期となっていた海外スタディツアーの実施である。こちらについては、本ラウンドテーブルで各委員や各会員からのご意見をいただきつつ、国際交流委員会としてどのようなかわりを模索するか検討する予定である。2023年度のミニ国際交流シンポジウムと2回目の海外スタディツアーとを兼ねて実施していく計画であり、目的や方法などを、ラウンドテーブルで検討していきたい。

2. 話題提供および司会等

話題提供	下島泰子(お茶の水女子大学) 牛志奎(馬鞍山師範高等専科学校・中国) 眞壁玲子(文京学院大学)、安井一郎(獨協大学)、鈴木樹(鎌倉女子大学)、元笑予(帝京平成大学) 周勝男(兵庫教育大学大学院) 小川眞理絵(東京学芸大学大学院)
総括	林明煌(嘉義大学・台湾)
司会	林尚示(東京学芸大学)
研究協力	小嶋祐伺郎(金沢学院大学)、伊勢祐美子(世田谷区立若林小学校)

(国際交流委員会、他)

日本学校教育学会第 37 回研究大会 プログラム

発行年月日：2023 年 7 月 6 日

発行・編集：日本学校教育学会第 37 回研究大会準備委員会

準備委員会 委員長 中川 智之 (川崎医療福祉大学 子ども医療福祉学科)
岡正 寛子 (川崎医療福祉大学 子ども医療福祉学科)
佐藤 大介 (川崎医療福祉大学 医療福祉学科)
重松 孝治 (川崎医療福祉大学 子ども医療福祉学科)
諏訪 英広 (川崎医療福祉大学 健康体育学科)
種村 暁也 (川崎医療福祉大学 子ども医療福祉学科)
橋本 勇人 (川崎医療福祉大学 子ども医療福祉学科)
蓮井 和也 (川崎医療福祉大学 子ども医療福祉学科)
松本 優作 (川崎医療福祉大学 子ども医療福祉学科)
森本 寛訓 (川崎医療福祉大学 子ども医療福祉学科)
西山 修 (岡山大学 大学院教育学研究科)
馬場 訓子 (岡山大学 大学院教育学研究科)
田中 修敬 (就実大学 初等教育学科)

【大会準備委員会事務局】

住所：〒701-0193 岡山県倉敷市松島 288 川崎医療福祉大学子ども医療福祉学科

日本学校教育学会第 37 回研究大会 準備委員会事務局 宛

E-mail：jase2023@mw.kawasaki-m.ac.jp (担当：松本・種村・蓮井)
